

緑化だより

No.200 令和5年12月号



シナヒイラギ

- 季節の花(わた(ゆふ、木綿))
- 水生昆虫の話
(ウズムシ(プラナリア))
- 小さな世界こけ(ピーターラビットのこけ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うさぎ 巧学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

わた(ゆふ)木綿

「しらぬひ 筑紫(つくし)の綿は 身に着けて

いまだは着ねど 暖(あたた)けく見ゆ」

沙弥満誓(さみまんぜい)万葉集巻3-336

これを訳しますと

(筑紫の産の綿で作った着物は、まだ肌身に着けて、着たことはありませんが、とても暖かそうで、心地よさそうに見えますね。)

この歌は作者が、太宰府に着任したとき宴席で歌われたもので、奈良の都への思いを募らせて詠っている時、作者は「筑紫の綿」を女性に例えて、まだ「身に着けたことがないが、筑紫は暖かくていい所ですよ。」と白々しくとぼけて詠います。様子を知っていた皆を笑わせたともいわれています。作者は筑紫の女性と懇意になり、子供を産ませていました。

ワタはアオイ科ワタ属で世界各地の熱帯、亜熱帯原産で約40種が分布し、最も歴史の古い繊維植物です。世界各地で栽培する多年生、または1年生の草本です。葉は互生し長い柄があり、掌状に3~5裂します。花は淡黄色が一般的ですが、白色または赤から黄色みを帯びた種類なども見られ、夏に咲きます。秋になると果実は熟し三片に裂開して白毛を密生した種子がはじき出されます。



ワタ

日本での栽培は平安時代(799年)が最初で、本格的には江戸時代に入ってからと言われ、当時の綿製品は高級品で庶民には手に入らないものでしたが、栽培が進んで増大するに伴い、綿の布団に寝られるようになったようです。古代の綿はほとんど養蚕の絹から加工した真綿とされていますが、九州は早くから大陸文化がもたらされており、朝鮮半島経由で渡来し、栽培されていたとの文献、遺跡などがみつかっています。

現在では、世界で栽培されており、綿繊維は下着類、ゴムタイヤ製造に使用され、またワタの種子油はサラダ油、ラードの代用にし、日本ではイワシの油漬け缶詰にします。品種によって綿の毛の長さが違い、それぞれ用途に合った綿の品種が利用されています。(上村)

水生昆虫の話

ウズムシ(プラナリア)

今年も寒い季節がやってきました。今月は、昆虫ではないけれども『ムシ』と名前のついている扁形動物門の『ナミウズムシ(渦虫・プラナリア)』をご紹介します。

プラナリアという名前では知られているこちらの生き物ですが、プラナリアとは、扁形動物門ウズムシ綱ウズムシ目(三岐腸目)ウズムシ亜目に属する動物の総称のようです。

「切っても切ってもプラナリア」と言われるように、体を真っ二つに切ると、切られた体からそれぞれ頭部と下肢部が再生され2匹に分裂、四等分にすると4匹に、8等分にすると8匹になるといふ、なんとも不思議な生物として知られています。



ウズムシ(プラナリア)

こんな風に無性生殖で地切りをして分裂することで繁殖する生物なのかと思いきや、実は雌雄同体で、前方部腹側に一对の卵巣、卵巣より後方の背側領域に精巣が散在しており、環境が整っていれば体内受精して卵でも繁殖できるという最強の生物なのです。

生息環境は、水質環境 I の指標生物でもあるように、比較的きれいな水の河川や池沼の底石に付着して生活しています。ウズムシを見つける場合は、こぶし大くらいの石がパラパラとある場所で、一つ一つ石を手にとって表面を観察することで見つけることができます。時には川の中に落ちているゴミについていることも。パッと見はヒルとよく似ていますが、石の上を滑るように滑らかに移動するので、少し観察してみることで、ヒルとは区別することができます。

体長は0.5~35mmと小さな体で、見た目はヒルのようにへん平の体をしていますが、頭部は三角形をしており、よく見ると2個の黒い目があります。

川の中では、小さな昆虫や、死んだ魚などを食しているとされており、どちらかといえば雑食性で、よく鶏レバーを与えると良いと言われます。飼育する場合は、冷凍赤虫やイトミズなどが適しているようです。ちなみに、淡水魚を飼育していた時に、水槽の中でいつの間にか増えていたことがあります。

そして…なんと！ウズムシの口は、頭部ではなく胴体の真ん中あたりにあります。写真をよく見るとちょうど真ん中あたりに口と思われる場所があることがわかりますか？ウズムシは、餌を見つけると、この腹部にある口から咽頭を伸ばして、餌に吸い付いて食していきます。ちょっとホラーな感じですね。

こんな不思議な生き物を、身近な川の中で見つけることができるなんて、なんだかワクワクしませんか？見つかったら、ぜひ観察してみることをお勧めします。(西村)

小さな世界 こけ

ピーターラビットのこけ

ピーターラビットはよくご存じと思いますが、作者のビアトリクス・ポターについてはあまり知られていないのではないのでしょうか？

ヴィクトリア朝の時代、産業革命によりイギリス経済が成熟していた1866年、イギリスのロンドンの中産階級に生まれた彼女は、6歳の頃から注意深く観察して絵を描く少女でした。自然史博物館にもよく通い、遺跡の発掘物や骨格標本などをスケッチしていました。1888~1900年代はナチュラリストとして活躍し、キノコの研究を熱心に行うようになり、キノコのスケッチがたくさん残っています。それに合わせて地衣類やススキゴケ、タチゴケ、ゼニゴケなどコケの観察も行っており、コケのスケッチ 28種類が残っています。

スケッチには実物大のコケが小さく描かれ、蒴や葉の特徴などは拡大鏡を使い10~12倍に描いています。

彼女がスケッチした後名前が変わったものもありますが、詳細に描かれているため、今の専門家が見れば正しい名前を知ることができるのです。(山根)



ススキゴケ (ビアトリクス・ポターのスケッチ
“ピーターラビットの野帳”より)



ススキゴケ

研修会のご案内

- 12月 3日(日) 『クリスマスリース作り』
リースの話とリース作り
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター 長井 稔
※要予約(先着30名)受付終了、材料費800円
- 12月 9日(土) 『冬のバードウォッチング』
散策しながら野鳥を観察します
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟 三次地方分会事務局長 衛藤 慎也
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止
- 12月 12日(火) 第7回ひろしま遊学の森 10:00～12:00 森林公園 管理センター 集合
「四季の移ろい」写真コンテスト公開審査
講師：二科会会員 宗岡 泰昭
※自由参加、駐車場料金必要
- 12月 15日(金) 『常緑広葉樹の見分け方』
常緑広葉樹の枝葉の観察と学習
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家 埴田 宏
※自由参加、無料、ルーペ持参
- 12月 17日(日) 『粘土でクリスマスボードを作ろう』
樹脂粘土をなどを使って、工作・色付け
10:00～12:00 学習室 集合
講師：デコクレイクラブアカデミー上級講師 モーモーアート代表 小田 みやこ
※要予約(先着25組)、材料費1,000円、小学生以上対象

お知らせ・ご案内 ☆

※ 12月の休園日は4日、11日、18日、25日の月曜日、
及び、年末・年始の12月29日(木)～1月3日(火)です

(レストハウスは月、木 休業)

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

モーモーアート クレイ作品展 12月6日(水) ～ 2月5日(日)

(ボード展示)

第14回ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展 ～12月14日(木)

第7回ひろしま遊学の森

「四季の移ろい」写真コンテスト 作品展
1月4日(木) ～ 1月25日(木)



昨年の「モーモーアートクレイ作品展」より



第14回ひろしま遊学の森
こども写生大会作品展